



ポーランド 第24回国際交流祭

11月20(土)と21日(日)の両日、在ポーランド日本国大使館とNHK文化センター共催による「第24回国際交流祭」が、大使館の広報文化センターとその建物の中庭を会場として開催されました(http://www.pl.emb-japan.go.jp/kultura/j_101201_2.htm:大使館ホームページ)。これは日本の文化や伝統芸能の分野で活躍している人たちが毎年世界各国を訪問し、作品の展示、実演を通して訪問地のの人々と交流し、相互理解と友好を深める催しです。今年2010年はポーランドの作曲家ショパンの生誕200年を記念する年であるため、ポーランドが訪問先として選ばれました(去年は中国の西安市でした)。この交流祭のため、日本からはNHK文化センターの講師の先生方と受講生合わせて180名がワルシャワを訪れ、28もの団体が展示やワークショップを披露しました。

日本文化のグループには書道、華道、茶道はもちろん、押し花、刺子、テンペラ画、ちぎり絵、盆石、コーラスなど多様な分野がありました。あまり天気がよくなかったにもかかわらず、幅広い年齢層のワルシャワ市民が1日3,000名(2日間で6,000名)訪れたことから日本文化への関心の高さが窺えます。来場者は日本の芸術を見たり、聞いたり、体験したりして楽しみ、とても盛大なイベントとなりました。

この交流祭の開催にあたり、本プログラムのボランティアの配属先である「ポーランド日本情報工科大学日本語研究室」の学生にお手伝いの依頼がありました。そのため、ボランティアは通訳、着付けモデル、会場設営の手伝いとして12名の学生を派遣しましたが、学生たちにとっては日ごろの日本



語学習成果を実践の場で試す良い機会となり、大勢の日本人に接することができたことでとても勉強になったと喜んでいました。

ボランティアは普段から大学の講座で通訳授業を取り入れています。学生たちがこうして公の場で立派に活躍できるのも、ボランティアが日々行う効果的かつ楽しい授業によってもたらされた成果と言えます。配属先大学に日本文化学部が設立されたのは2007年秋のことで、まだ歴史が浅い中、ボランティアの様々な試みは学生の能力向上に貢献しているだけでなく、学部全体に好影響をもたらしており、大学からも高い評価を得ています。この日通訳する学生の様子を見て、ボランティアは「このような機会に役立つような人材を育成するためにも、さらに会話力の向上や実用的な日本語指導を目指し、授業内容の充実を図りたい」と気持ちを新たにしました。常に前向きな姿勢に頭が下がります。

昨今ポップカルチャーが世界的に注目されていますが、伝統的な日本文化も本当の良さを知り、本物を見たり体験したりすることによって多くの人に感動を与えるということを改めて実感できた交流祭でした。

一方、日本から訪れた講師の方々にとっても印象に残る訪問であったようで、ポーランドでの日本文化に対する関心の高さに驚き、「日本はもっと世界に自国の文化を誇るべきだ」と思った先生や、「帰国したら友人にポーランドの人々との交流体験をたくさん話したい」と述べる先生もいらっしゃいました。お手伝いをした学生たちに関しては、純粋で素直で感じがよく、交流ができてよかった、思い出深い旅行になったと皆さん感激されていました。真の意味で素晴らしい交流となった2日間でした。

